

史料紹介：  
黎朝碑文集 III

—— 黎朝開国功臣関連碑文（2） ——

八尾隆生

Bài Tư liệu:

Tập Văn bia thời Lê III

- Bia Khai quốc Công thần nhà Lê (2) -

YAO Takao

はじめに

前号に引き続き、黎朝開国功臣に関連する碑文の文面を公開するが、予想通り、前号には多くの

ミスがあり、更に昨冬の調査で編者が把握していなかった情報を手にすることができた。以下ではまず「黎朝開国功臣関連碑文（1）」の訂正・補充を行う。

功臣碑及び資料の来源

碑文対象者	建立場所	存在状況	拓本	筆写本	過去の公開	碑文の性格
阮熾	Nghệ An省 Nghi Lộc 県 Nghi Hợp 社	◎	VHN	◎故黎名臣譜	◎	功臣碑文にあらず
丁禮・丁蒲・ 丁列	Thái Bình省 Vũ Thư 県 Song An 社	◎	VHN	◎八尾	×	功臣碑文にあらず
黎魁	不明	×	×	◎皇越文選	◎	功臣碑文にあらず
阮隻	TH省 Đông Sơn 県 Đông Ninh 社	○	×	◎家譜	PĐD, BXV	佐命功臣碑文
鄭可	TH省 Vinh Lộc 県 Vinh Hòa 社	△	×	○PĐD, BXV	×	功臣碑文にあらず
鄭公旦	TH省 Yên Định 県 Định Hải 社	◎	×	◎八尾	×	功臣碑文にあらず
以上が前号掲載分						
黎抄	TH省 Thọ Xuân 県 Xuân Thiên 社	○	×	◎家譜	×	佐命功臣碑文
杜大	TH省 Thọ Xuân 県 Thọ Lâm 社	判読不能	×	◎家譜	PĐD	佐命功臣碑文？
陳榴	TH省 Thiệu Hóa 県 Thiệu Quang 社	◎	×	◎家譜	×	功臣碑文にあらず

略号：

TH=Thanh Hóa、VHN=Viện Nghiên cứu Hán Nôm、Trung tâm Nghiên cứu Khoa Học Xã hội và Nhân văn Quốc gia（国立社会人文科学研究センター所属漢喃研究院）

PĐD=Phan Đại Doãn（ファン・ダイ・ゾアン教授）

BXV=Bùi Xuân Vỹ（ブイ・スアン・ヴィ研究員）

記号：×＝無し、◎＝判読極めて良、○＝判読良、△＝判読困難

下線部分が訂正箇所である。鄭公旦及び陳榴の碑文の所在位置の誤りは、編者のフィールドノートの誤写によるものである。

### <阮熾>

釈文の第1行目は碑文の題（原碑でも右から左への横書き）で、本文ではない。また、本文が公開されていないと編者は思っていたが、ハノイのハンノム研究院所蔵『故黎名臣譜』（図書番号A.160）に本文が全文掲載されていることを発見した。また、ハンノム研究院の最近の拓本収集作業により、現在では同院に本碑文の拓本がすでに存在することを確認した（拓本番号：N.30451-4）。一方、ハノイ師範大学元教授グエン・ディン・チュー Nguyễn Đình Chú 氏（ご子孫の一人）が中心になって1993年に『崗国阮熾一族譜・遺訓・付録』（グエン・ディン族会議編）が出版され、原文のヴェトナム語訳が掲載されている<sup>(1)</sup>。また不鮮明ながら碑文の写真も掲載されている。更に1997年にはゲアン（乂安）において阮熾に関する学術会議が開催され、その報告書『太師崗国阮熾』（社会人文科学研究センター・乂安省人民委員会編、ゲアン省文化情報局刊）が出されている<sup>(2)</sup>。

### <黎康>

黎康は「黎魁」の誤り。黎魁も黎利の兄黎除の子で、黎康の兄弟にあたる。

### <鄭可>

2001年12月にタインホア省科学図書館の故ブイ・スアン・ヴィ氏の遺稿を見せてもらうことが許可された。鄭可碑文も氏の筆写版が存在したが、時間の制約のため、満足な照合ができなかった。次回に期したい。

次に、今回公開する3つの碑文およびその対象者につき略述する。

### <黎抄>

藍山出身の武臣。功臣ランキングではさほど高い位置にあったわけでもなく、黎朝成立後は『全書』の記述にもあまり出てこない。ただ、同じく開国功臣である長男黎寿域が特に聖宗朝で重用されたため、仁宗期に没したにもかかわらず、聖宗期に碑文が贈られた。現在はサトウキビ畑の中に存在し、特に上部と下部の摩滅がひどい。1992年秋と95年12月の2回筆写を行った。

この碑文の他に、マイ・ホン氏（ハンノム研究院研究員）によれば、現ハーナム Hà Nam 省ビンルク Bình Lục（平陸）県フアムサー Phạm Xá 社に黎抄の子孫の一支派が現存し、阮朝期の碑文も存在してそれを氏が紹介している<sup>(3)</sup>。しかし、黎抄の家系を黎朝太祖黎利の兄黎除につなげており、信用に値しない（原物を編者は未見。またハンノム研究院にもこの碑文の拓本は無い）。

### <杜大>

同じく藍山出身の武臣。もとは「犬」という名であったが、「大」に改めたとされる。仁宗生母宣慈皇太后阮氏と関係を深め、同輩の大臣を次々と追い落として政権を握る。そのためか、聖宗の彼に対する評価は低い。杜氏の家譜には「光淑太后謝恩事跡」と称する文章が存在する。これは仁宗の妃の一人であった光淑皇太后が仁宗に些細なことで殺されそうになったところを杜大が助け、仁宗が没して皇太子であった聖宗が即位した後、母子共々謝恩のため、田地を給したというものである。光淑呉氏は太宗の妃であり、聖宗は皇太子に立てられたことはないし、仁宗の子ではなく異母弟である。宣慈皇太后が聖宗の生母光淑呉氏を殺そうと計ったという俗説があるほど、聖宗と宣

慈阮氏・杜一族の関係は微妙なものであり、これに対処するためこのような文章が捏造されたのであろうか。

碑文自体は完全に摩滅し、一文字も読めないが、家譜(1998年12月現地にて収集)の中にそれを書き写した部分があり、それをもとにゾアン教授が『タインホア歴史研究』誌第1号に翻訳文を公開している<sup>(4)</sup>。また、ヴィー氏もヴェトナム現代語翻音及び翻訳を行っているが、タイプうちの原稿のままで、未公開である(タインホア省科学図書館蔵)。

### <陳榴>

同じく藍山出身の武臣。その子陳欄も開国功臣の一人である。彼も黎朝成立後は政治的に活躍していた形跡があまり無く、正史にその事跡がほとんど記されていないことに憤慨した子孫が中心になって作った碑文が今回公開する祠堂碑文である。19世紀半ばの碑文であるため、ほぼ完全に読むことが可能である。1992年秋と95年12月の2回筆写を行った。

### 原文及びその見方

今回の碑文は保存状態が各碑文によって相当異なっているので、体例もそれぞれ異なる。

まず、黎抄碑の上段は家譜(碑文のすぐ近く)に現在も住んでおられる一族の方が所蔵)の中に残された筆写文(おそらく阮朝時代に筆写されたと思われる)、下段は原碑文を見た上での編者の訂正である。上記にあるように、原碑の上部と下部は摩滅が激しいため、改行部分がほとんどわからない。よって改行マークは付さなかった。“□”は判読不能の文字が一字、“△”は複数文字(字数不明)あることを示している。また“◆”は原碑に文字があるにも関わらず筆写文に一文字欠けていること、“—”は逆に原碑には明らかに存在しない文字が一文字筆写文に存在すること、“■”は原碑もしくは筆写文に一文字空欄があることを

示している。

次に杜大碑は原碑が完全に読めないで、二つの筆写文を対照した。上段がタインホア省ティエウホア Thiệu Hóa 県ティエウフック Thiệu Phúc社に、下段が同省クアンスオン Quảng Xương 県クアantan Quảng Thắng 社(現在はタインホア市内に編入)に残っているものである。用いた記号として、“□”は判読不能の文字が一字、“△”は複数文字(字数不明)あることを示している。また“◆”は一方の筆写文に文字があるにも関わらず他方に一文字欠けていること、“■”はどちらかの筆写文に一文字空欄があること、“—”は裂失部分であることを示している。“○”は原文のままで、おそらく原碑に従って改行や空字を示すために付されたのであろうが、原碑によって確認できないため、改行位置を示す記号は使用していない。“[ ]”は割注を表している。

最後に陳榴の碑文は阮朝時代のもので保存状態も良いので、原文のみを記載した。各行の先頭の数字は行数を、“J”は改行を、“□”は一文字読めない文字があることを示している。

### 註

- (1) Hội Đồng Gia tộc Họ Nguyễn Đình (Nghị Hợp - Nghị Lộc - Nghệ An), *Cương Quốc Công Nguyễn Xí - Tộc phả - Di huân - Phụ lục*, 1993.
  - (2) Trung tâm Khoa học Xã hội và Nhân văn & Ủy ban Nhân dân tỉnh Nghệ An, *Thái sư Cương Quốc Công Nguyễn Xí, Sở Văn hóa Thông tin Nghệ An*, 1997.
  - (3) Mai Hồng, Lê Sao và dòng họ của ông qua ba tấm bia tại di tích từ đường họ Lê ở Phạm Xá, Đình Xá, Bình Lục, Hà Nam, trong: *Thông Báo Hán Nôm học Năm 1998*, Viện Nghiên cứu Hán Nôm, 1999.
  - (4) Phan Đại, Văn bia thần đạo Đỗ Khuyển, *Tạp chí Nghiên cứu Lịch sử Thanh Hóa*, số 1, 1985.
- Phan Đại は Phan Đại Doãn 先生の筆名の一つ

<黎抄碑文>

(碑題、右から横書き)

之 功 開 皇  
碑 臣 國 越

贈特進内入檢校大司徒平章事上柱國鄉上侯仍賜姓諡靖簡黎公碑銘并序

△△△△△△△△△△ □ 卿△△△△△△△△△△△△△△△△

公諱抄清化府梁江縣斷梁社人姓黎氏初仕于筋重興後元中爲城顯大夫千牛衛將軍管領御前直童軍加

□□□ □ □ □□□□ 武□ △△△△△△△△△△△△

光祿大夫車◆衛大將軍■時南風不曉胡虜宣驕民墜塗炭垂二十年我

△ □ △△△△△ △△△△△△△△△△△△

太祖高皇帝奮自藍甸大集義師以爲弔伐之舉公知其帝業必興遂委質爲臣弗離朝夕■帝知其忠實可

□□□ □我 □ □□ □ △△△△△△△△△△ □

任俾與贈太傅黎文靈侍中黎禮■即遇之其鄰邑諸册未盡臣服如夔拜印向箇蓋麻賴者◆俱從◆帝悉討

□ □ □ □ △ □ □□ □ □ □ □ □也公 ■ □

平之自是遠近庶邦莫不向赴◆◆◆■帝乃召諸管郎論之日計吾今日冀以獲安惟納質輸平耳不知誰

□ 大□時△△ △△△△ □ □

可使者公即毅然請往是以得緩戊戌初落水之役以後凡攻一城畧一地陷一陣◆◆帝在城地命公以路

□ △△△△△ 略 □□ 無△△ □□

文律軍士徇東都觀賊虛實卒之忙正蠻俸之戰果得大捷乃還帝憫其勞授國清化府尉◆◆知諸事令護内

△△△△△ □ □ □ □□□ ◆ 内府 □

軍■帝有好後篤文律所間因◆帝與賊相持反謀襲帝帝大破之時公董府事甚敏故妃后嬪滕得免於難

△△ □□ ■ □□ □ □□□□ □ △△△△△△△△△△△△△△

乃由塊縣至靈山糧絕輸月將士疲▲▲▲▲▲帝周旋來帆暫施殺象饗士實食其肉行至忙正帝謂勢猶

多□亡者□公△ □ △△△△△△ △△△△△△△△△△△△













元扞籌軍招集杜家玉油等縣繼命監衛儀軍與黎舌設伏兵於憂橋斬指揮韋尚又偽指揮阮榮寇掠丹船海

口與黎舌等領兵擊破之斬馘及溺死者甚衆九月命總監渭化中路軍民事與通侯黎仁澍◆長快烘等路進

◆  
燭袂

圍至靈城既而別領兵數千經畧市橋昌江等城所向賊皆風靡十二月與人封分道引兵直抵菩江崇攻刀鴉

◆又

賊救衆入城不敢復出屯拋江崇以截其樵蘇之路是大江東北盡爲我有丁未十月授爲化鎮招討使總監三城

江與太監鄭可攻之江城◆◆宣光陀江各畧軍邀擊援兵之由雲南進者師行至窓舍◆其寧伯公縱兵擊破

既降

◆  
遇

之水尉黎盃繼至乃合兵擊總兵黔國公沐晟於窓密又大破之斬馘及獲馬驢牛畜戰器輜重不可碑紀援兵

太

舍

犯

既殄各城遂降戊申正月帝行東關城都焉命兼知內殿及東西南北四道都太監內外諸軍事以代耳目賜□

平軍一隊以寵之本月授金紫光祿大夫左麟虎衛上將軍賜金魚袋上輕車都尉銀符列侯賜國姓是歲四月

◆  
受

◆  
經

皇帝即位建元順天八月詔受同總知捧聖衛諸軍◆◆領天網中聖翊運兼知御前鐵突調各兵二年藍京命

擊破

公權管五道諸衛軍事鎮守駕回夜至城門有旨令開門公日暮夜難辨不敢奉詔帝命侍臣秉燭照之且呼公

◆  
令

◆  
照

日皇帝在此乃開門因奉詔旨公隨聖駕以入三年陞同總管賜金符十二月復禮從征往占城國洲師還都以

公陞太保正功臣金紫榮祿大夫神符海門奉鎮宣使行軍總管捧聖衛諸軍事同管領鐵突中聖翊運管領天

◆  
俸

綱軍太監內外諸役正護軍賜金魚袋金符皇帝起藍邑開創大業既成其始今疾大漸已不可為卿等其善輔

銀

吾兒克成厥終以共享天祿乃賜公聖訓一本黃金五十兩俾受顧命帝崩公與諸大臣復禮奉太宗即位紹平



◆◆封功臣陞入少尉參知西海道諸衛軍事兼知內外每役例使太監內外如故三年五月俾兼領親隨舍人元年使

各局七月陞清化農貢鎮撫軍大將軍柱國字侯四年加參知政事六年命知御前各軍賜金刻云敬德金符太華

寶元年庚申三月◆太宗親征往順海洲命公留守体察內外知鎮撫前殺後奏三年皇上誕生◆仁宗皇帝以



公謹厚特命保養及釋執哀牢犯邊詔公帥師討其罪師至陀浪遇敵接戰劫其兵進軍卜加屢戰屢捷追至鎮

行 樞 進

釘蒲稔罵洞又連破之賊將扭刺僅以身免乘勝逐北至鄭北察而知之奉◆捷陞入內司進爵◆職三年八月



◆◆太宗皇帝崩辰屬危疑四年三月公與大臣奉◆◆皇上即位而內寔親抱捧既而◆議請◆皇太后垂簾



公 捧抱 又有



聽政國內以安◆太和元年癸亥◆◆陞崇進入內都督平章軍國重事◆◆◆◆兼清華中路古雷◆變洞

政已

四月

◆◆◆ 梁江鎮撫軍 在 陽

社攝管本社民人辰明國使薛謙至見公常在◆◆左右動止可觀問是為何官擯者對以保傅臣謙日寄托得

上

人矣三年六月良日特進揚武功臣梁江鎮上將軍特進入內都督平章事封公侯◆皇上專以心服委公公有

腹心用

謀獻則先入告及議定人無知之十一月進爵縣侯四年占城寇邊大臣皆奉命徂征惟公日夜綰宿營以靜內

獻謀

衛



崇儉去奢慎終如始以保家業喪葬祭祀一遵◆朝廷定制及酌古禮◆為所得◆毋惑僧道誑誘毋效世俗奢

◆ ○國朝 之 為

修虛費資財褻瀆神明以致陷身於有過之地其訓以授公爽碑主祀事寢疾謂公爽曰我輔弼三朝位居首  
僭

相年登六十人事已盡今得老死闕下天意於我不為不厚爾子孫能遵吾家訓我雖委骨九泉無憾矣國初常

預患難及保護◆聖躬之力祖妣顯妣正室皆封贈郡◆夫人子男九長◆貫之同綏御前鐵突軍中亦老貫之

○ 功累封至叔人先公卒 公 杜貴 中軍 公◆

卒贈關內侯次公爽殿前都指揮使知御前海鯨海馬海□海鶴海鴻等謙謹有父風娶入內司馬參預朝政黎

功 歟 謹謙

受之女玉諱公庭克遜公度久陸思道全美直友俱未冠女十三玉芳嫁◆綏知軍騎衛諸軍事參知政事贈入

功達功 功 功 功導 ◆◆◆ 加

內司馬亞侯阮魯皇太后之弟也玉菲娶太傅黎文靈之子入內侍省副都使知左班弘毓玉芝嫁太傅黎汝覽

◆

之子殿前都指揮副使知御前震雷軍◆玉蓮嫁大司徒黎慎之子同知御前侍衛軍◆◆◆玉蕊娶贈列侯鄧

◆ ◆ 江 ◆◆ 同知解 藥嫁

可之子公穆玉荃◆◆玉蕙玉祥玉管玉薛玉蘭俱未笄而貫之◆玉芳玉芝皆郡夫人所生孫男五曰躋惠迪

玉正 貴 公 出◆

孔彰克篤思永女三玉宴玉温玉琦皆嫁外女孫玉容玉原玉嬪皆玉芳所生也公爽得卜以聞九月辛巳勅入

寶 騎 納 蓉 ◆ 出

內少尉參知政事黎盧綏五道送其喪仍管祠堂于居以樓公之神既祖道上御城南送之以錢五千貫加贈朝

◆◆◆

野咸以為榮十月初七日乙卯葬于其鄉之寅原銘 贊曰

◆ ◆◆

厥初草昧 朝氣晝昏 高祖奮興 整頓乾坤 肅々忠定 絳侯伊匹 辰舒忠涓  
皇

出提師律 戈船鐵馬 經畧四遐 攻城陷陣 有印累々 有綬若々 望聲殿□  
岩

屢司管籥 秋霜大節 烈日精忠 三朝脊倚 休戚攸同 辰屬憂危 親承顧命  
憂

日馭重扶 擎天力競 大度洪量 身保安危 社稷之功 一何崱々 公於成規  
巍

守而勿失 政尚清靜 民以寧一 脫辭繁務 茂贊化鈞 謙々保終 久哉大成  
允

帝曰博公 國之元老 宜壽宜康 優游論道 孝弟之恩 始終大義 卹典有加  
悌

寵榮鮮儼 雖死猶生 來者無究 其徵斯銘  
儼



延寧六年己卯良月己未正奉大夫翰林承旨學士知入侍學生局兼知御前學生局提舉併積山天福寺輕車



都尉臣阮直通奉大夫內密院事兼中書侍郎上騎都尉阮如堵同奉



敕杜大壬戌科進士中書省中書舍人兼知近侍祗候各局臣阮覽奉書檢正臣阮過溫奉篆御前左班雕經作



局侍衛人一仄亞明字院天祿奉刻

## 〈陳榴碑文〉

- 01 重修恬國公祀堂碑記并贊」
- 02 公姓陳諱榴昔爲黎開國功臣蒙賜國姓黎今苗裔在瑞原會敘者有祀堂在焉而修其堂之壇則籍于唐安丹鑿者寔公十六世孫」
- 03 陳文炳彪如鳩工於尹寅定日之壬戌夏也本年春彪如陞壽春府太守既造堂拜謁爰持其先叔所得遺譜焉所自誌公」
- 04 墳碑文來示余以請記其祠堂余因思曩讀國史曾知前黎功臣中有公特異於人而史既無表出又不見諒意中爲之不」
- 05 平則今就記以平之可也公吾清化梁江今瑞原縣覃施今廣施社人黎太祖起義平吳委質事之以爵位言則歷授諒山安邦監軍民事又爲」
- 06 宣光宣慰使又兼順化都總管歷由入內少保西道都督爵上智字揚武叶謀同德推忠佐理功臣特進金紫榮祿大夫入內檢校」
- 07 大司馬平章軍國重事上柱國太傅恬國公卒賜諡忠靜贈王爵封福神以勲勞言則黎兵初徇愛州明方政屯據會敘茅爾山」
- 08 公攻援之得賜其地爲采邑又與黎盃攻破丘温城明人夜遁未幾顧興祖以兵五萬來援至坡壘關公擊破之興祖大敗走還柳昇舉」
- 09 大兵二十萬來公與戰佯北誘至馬鞍山下伏兵起擊斬之已而官軍破陣斬梁銘遂擒崔聚黃福公有力焉至仁皇延寧中命公」
- 10 與黎蠶守備中外城池淳皇光順初又與黎列奉命擊琴蠻平之此皆互見於譜與史至如公爲人若何畧之不見惟會奏辭」
- 11 歲俸仁皇特賜戶五十迨增給王公大臣俸錢公復進曰常見民間苦迫一錢之微視之猶十臣乞辭斯言也見載於史余深異之夫」
- 12 亂後之民憔悴必甚而當代功臣有黷債者有貧猥者曾見其間人皆愛我家兄公獨念吾赤子此國史所未聞也若公者」
- 13 素以武之不受死能兼文之不受錢太平屬望正在乎此斯所謂鐵中錚々者歟可恠者屯般弒逆之禍生於宮掖以位居絕」
- 14 席身提禁旅諸臣狴不能摘發况如公當日職在守備巡警於外也耶乃洪德文臣撰光順中興記以此短公爲具臣亦是作者不敢」
- 15 直斥當塗以公既沒而推歸之耳後之史臣不見諒而錄其記于史徒以一筆欠直坐令九原受枉不其謬歟且觀黎初隴崖功臣」
- 16 列上智爵凡五十二人策勲行封號爲六等公蓋四之下二之中無以逾人也然諸公臣多不令終即令終而後亦多不振公則歷事」
- 17 四朝九十八歲壽終正配阮氏封國夫人所出二子長諱遇官至禮部尚書爵敦恭伯次諱爛官太尉爵愼國公奕葉簪纓十余」
- 18 年狴能保有祠堂又一在今河內之清廉武舍一在南定之務本度越皆人物蕃盛度越又有祠廟奉公欽蒙
- 19 本朝勅封而公墳在廣施者靈氣未歇今狴爲瑁族黎阮二姓監守焉不但是也丹鑿一支由會敘迂者自太

醫院公以後歷四世而」

- 20 秀發彪如堂叔陳文爲誠思於明命乙酉科登賢書歷官按察使至太僕寺卿嗣德戊申科彪如繼登而誠思哲嗣輝積居厚」
- 21 又由賢書應辛亥宏詞科擢甲第同吉士出身今居厚歷翰垣入閣方與彪如俱激昂青雲焉由此觀之詩云樂只君子保佑」
- 22 爾後此豈具臣者得與於斯哉竊以爲黎之賢臣良將公其人雖於生平操行不得其詳而但味一錢之言簡便知九鼎」
- 23 之高佳蓋可因以知祥風和氣之發於善念以衍爲甲族純禧者有所自來矣然則尚論者可不揆諸平情之論以表出」
- 24 之以爲後世人臣居成功之鵠乎而況夫今也馬水非賒鵬風可接誠思之求遺譜彪如之修祠堂敘任一門之追遠又足爲吾」
- 25 州民德歸厚之標者乎此余所以記之之意也祠堂坐入武傍江而前俯仍舊貫也材木必棟良瓦蓋而軌墻曰完也」
- 26 始祖奉公位以正中昭穆族世次歲春秋茲祀不忘本也既又造祭器置祀田池立族約世擇族內耆目監守以爲永遠計其」
- 27 支費銀八十兩錢四百緡併敘存照而重之以贊云 贊曰」
- 28 恬國糾々佐命黎祖功等參百品超噲伍錢辭以心穀貽至今雲仍秀發 昭代華簪四百餘載世遠地悠彼廟貌肅此祠堂」
- 29 修茅□後峙添馬前流堂與之偕香火千秋」
- 30 嗣德上元甲子日長至前四日」
- 31 辛巳 恩科舉人壬午會乙榜原翰林院著作領清化督學澹齋汝伯仕元立盟手記」
- 32 」
- 33 」
- 34 」
- 35 一祀田秋田一所相連共一畝五高東南近沛兗處夏田西北近小路嗣德十七年十一月日本社契賣取錢納木項」
- 36 一池一口一高餘在祠堂前本族原典本年九月日始贖」

( 広島大学大学院文学研究科助教授 )